

近隣地域とともに歩み続ける大阪大学環境サークル GECS の軌跡

大阪大学人間科学研究科・教授、^{みよし えまこ}
大阪大学環境サークルGECS・顧問 **三好 恵真子**

■大阪大学環境サークルGECSとは…

大阪大学公認サークル環境サークルGECS (Gaidai Eco Challengers) は、旧大阪外国語大学における筆者が担当する基礎ゼミ (学部1、2年生対象) を契機として2003年に立ち上がったキャンパスエコロジーを考えるサークルがその始まりである。大阪大学との統合後 (2007年10月)、2008年6月に本学で初めての環境サークルとして公認され、今年で誕生から16年目を迎える。10名ほどの有志の集まりからのスタートであったが、現在では100名前後のメンバーを抱える、本学としても誇るべきサークルとして成長している。学生主体であるその地道なエコ活動は、さまざまな場面で評価されており、2018年12月に開催された全国大学生環境活動コンテストecocon2018において2年連続でグランプリ (環境大臣賞) を受賞

し (写真1)、2013、2014、2017年に続き、通算4度目のグランプリ受賞の快挙を成し遂げた。

ecocon2017では、子どもたちが遊びの要素を取り入れながらの環境問題を学ぶことができる「リアル脱出ゲーム～温暖化へのカウントダウン～」が、またecocon2018では、SDGsの認知度を上げ、より環境影響の効果が体感できる「一国の主ゲーム～君は何を守るのか～」がそれぞれ高く評価された。こうした実績により、本学においても2019年には通算5度目となる「課外活動総長賞」の受賞に至っている。これも一重に、学生たちの活動を日々見守ってくださる大阪府吹田市・箕面市・豊中市等の行政、各種NPOおよび地域住民の皆様のおかげで支えられていることに深く感謝している。

■「他者を思いやる心」から始まったキャンパスエコロジー

GECSを産んだ基礎ゼミでは、身の回りの環境問題に関するグループワークを行い、さらに各成果を総合した一般向けのエコブックの作成をゼミの最終課題として課していた。あるグループが、分別など身近な廃棄物の調査を行っており、その一環として大学内のごみ処理を請け負っている清掃協議会のスタッフにインタビューを行った。その結果、内フィルムをはがして外紙は回収して再資源化できるお弁当箱「ほっかる」が、そのまま

無造作にごみ箱に捨てられており、清掃員が、腐敗臭を懸念してごみ回収の回数を増やさねばならない…という現実を知り、衝撃を受けた。またお弁当箱も3割しか回収されておらず、7割がごみとして捨てられていることがわかってきた。こうした状況を何とか改善したいと思い立ち、有志が結集してGECSとして立ち上がり、「ほっかる」回収への地道なアピール活動を進め、ついには9割回収を達成できた。また学園祭では、割り箸を使い回してもらえようと心を込めた手書きのメッセージを添えた箸袋を作成し、割り箸ステーションにて一人ひとりに手渡した。また使い終わって最終的に回収された割り箸を古紙にリサイクルしてくれる王子製紙 (株) の工場まで当時のGECS代表が自転車にて運ぶという徹底的にエコに配慮した行動は、新聞でも取り上げられた。他方で、Asia Pacific Greens Kyoto Meeting 2005において、これまでの活動を英語で発表する機会にも恵まれた。こうして黎明期のGECSは、環境問題における見えないつながりを見えるものにしてゆく…という「他者を思いやる心」を育みながら、地道なエコ活動が展開されていった。

■学生がのびのびと活躍し、

温かく見守り支えてくれる近隣地域の力

現在GECSは、①R班 (古紙回収等)、②壁面緑化班、③環境教育班、④Mck班 (まちをきれいにする)、⑤シェリー班 (再利用促進)、⑥CCC班 (企画・連携構想)、⑦花咲かにいさん (キャンパスに花を植える) という7つの班に分か



写真2 地域の方々とともに箕面川清掃イベントで活動している。Mck班の地域活動が評価され、2015年に池田市より「ともしび賞」を受賞している。また恒例として、毎年6月末頃に箕面西公園を中心に地域の方々と協力しながら川清掃を行うイベントを開催しており (写真2)、2011年には大阪府より河川愛護功労者知事感謝状が授与された。

実のところ、こうしたGECSの活動は「課外」で行われており、本務である学業とのバランスなど学生たちにさまざまな葛藤が生じることも否めない。それでも何よりも嬉しく感じるのが、「楽しくなくちゃ!」、「地域との交流が貴重で勉強になる」という前向きな気持ちをメンバーたちから聞けることである。他方で、年々代替わりしていく宿命の中で、こうしたGECSという共有性をもつ存在として長きにわたり維持できていること、またいつの年代のメンバーもそれぞれの形で自分たちのGECSを想起できることは、非常に貴重であり、今後も息の長い活動とその成長を願ってやまない。

次のバトンタッチ先は▶ 琉球大学エコロジカル・キャンパス学生委員会



写真1 ecocon2018におけるグランプリ受賞